

第IV部門

新聞記事に基づく文化財防災の社会的着目度の考察

立命館大学理工学部 学生員○水谷 泰啓

立命館大学理工学部 正会員 小川 圭一

立命館大学理工学部 フェロー会員 塚口 博司

1. はじめに

近年日本の文化財に対する注目が増してきている。それと同時に文化財に対する防火対策、耐震対策など文化財を災害から保護しようという動きも活発になってきている。日本の文化財は過去の日本人の精神活動を知る重要な遺産である。そのため、文化財に対する防災対策はこれからも必要となってくるであろう。しかし人力、財源には限りがあり街の防災システムを整備していく中で文化財防災だけに特化することはできない。防災全般の中で、文化財防災の位置づけを明確にするには市民がどの程度それを重要と考えているかを把握しておく必要がある。

そこで本研究では日本の社会を映しているマスメディア（新聞）を利用し、文化財、文化財に対する防災がどのように社会に認識されているのか、また「文化財防災」という言葉の定着度を把握することを目的とする。

2. 使用する新聞とマスメディア効果

2-1. 本研究で使用する新聞

本研究で対象とするのは主要な全国紙とし、このうち実際の新聞記事がインターネット上で検索できる新聞を使用した。具体的には「聞蔵ビジュアル2（朝日新聞）」、「ヨミダス文書館（読売新聞）」、「日経テレコン21（日本経済新聞）」、「毎日 news パック（毎日新聞）」を利用する。

2-2. マスメディアがもたらす社会的効果

本研究ではマスメディア（新聞）を分析することによって日本の広く一般的な意見を抽出できると考えている。その根拠として「マスメディアの議題設定機能」が挙げられる。議題設定機能とはマスメディアが主張した物事の「争点」がそのまま大衆へと伝わることである。例えば文化財防災が必要だとマスメディアが主張すると大衆は文化財防災について必要だと認識するまでには至らなくとも文化財防災について必要か必要でないかを日頃から考えるようになるということである。

3. 災害時の文化財に関する記事

1993年の北海道南西沖地震から2007年の能登半島地震までの期間で地震に関係する文化財記事を抽出した。「各地震名」かつ「文化財」の条件で新聞記事を検索した結果、431件の記事が検索された。そのうち内容が文化財の話題を取り上げているものは114件であった。その114件を「防災・対策」に関するもの、「被害」に関するもの、「修復・復元」に関するものの3つに分類したところ図1に示すように「被害」「修復・復元」の記事が大半を占めた（グラフの各項目の割合は114件に対する内訳である）。この結果から地震が発生したときの文化財はその被害がまず伝えられ、破壊された文化財が修復復元されるときに再び着目されることがわかった。

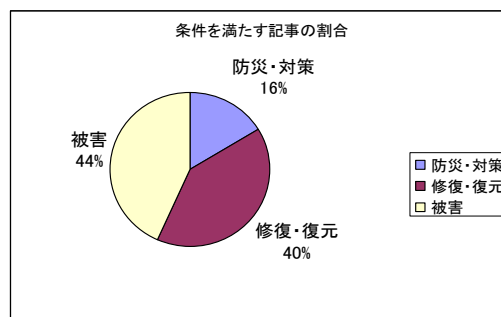


図1 記事の内容の割合

4. 文化財と結びつく言葉

「文化財」という言葉について他のどのような言葉と結びついた記事が多いのかを調べた。その結果、図2に示すように被害をあらわす「被害」型の言葉（被害、地震、被災、焼失、災害）、対策をあらわす「対策」型の言葉（対策、修復、保存、復元、保護）、同様に「観光」型（観光、名所、旅行、ツアー、巡り）、「発掘」型（発掘、出土品、遺物、埋蔵、古代）、「行政」型（行政、庁、教育委員会、指定、省）の言葉の中で最も記事数が多かったのは行政型の言葉であった。マスメディアが文化財に注目するのは行政が文化財に関係するとき、例えば文化財保護法、重要文化財の指定などの話題のときであることがわかった。

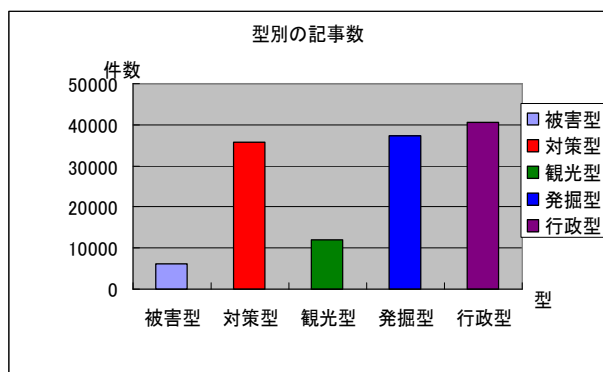


図2 「文化財」との結びつき

5. 「文化財防災」の使用頻度の推移

「文化財防災」という言葉が社会にどれだけ定着しているのかを調べた。具体的には「文化財防災」という言葉と「地震または文化財」に関係のある言葉を対象にして、それぞれの言葉が使用されている記事数の変化を調べ、変化の傾向を分類することでその言葉の定着度を見た。グラフは図3に示すような5つの種類に分類された。

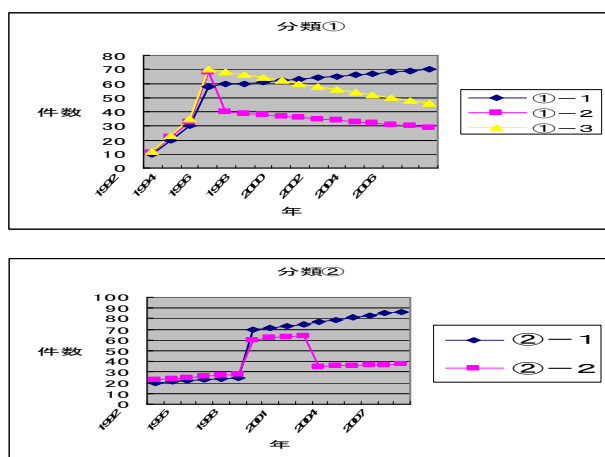


図3 記事数の変化の分類

分類は分類①-1から分類②-2とする。分類の意味を簡単に述べると次のようになる。

- ・分類①-1：兵庫県南部地震を契機に社会に定着した言葉
- ・分類①-2：兵庫県南部地震を契機に注目を集めたが定着しなかった言葉
- ・分類①-3：記事数は減少しているが災害後も長く意識された言葉
- ・分類②-1：復興期に定着した言葉
- ・分類②-2：復興期に注目されたが定着しなかった言葉

このように分類した結果「文化財防災」という言葉を含む記事数の変化のグラフは図4のようになり

分類②-2に分類された。

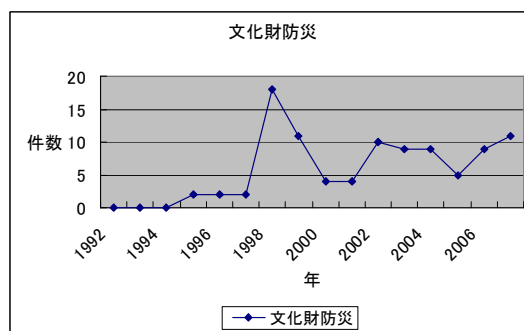


図4 「文化財防災」の記事数の変化

他の言葉の分類は次のようになった。

- ・分類①-1⇒「危機管理」「被害想定」「防災研究」「災害情報」「耐震」
- ・分類①-2⇒「防災対策」「被害状況」「災害対策」
- ・分類①-3⇒「災害復興」
- ・分類②-1⇒「文化遺産」「地震予測」「災害支援」
- ・分類②-2⇒「文化財保護」「文化財防災」

兵庫県南部地震を契機に「防災研究」「耐震」などの言葉が社会的に定着したが「文化遺産」という言葉が社会的に定着したのにも関わらず「文化財防災」という言葉はあまり定着しなかった。その要因の1つに、全国紙を対象として調査を行ったことがある。防災対策の主な対象となる建造物としての文化財は関西地区に集中している。そのため全国区の出来事を報道の対象とする全国紙には定着しなかったと考えられる。

6. 終わりに

本論文では新聞に基づく考察で傾向を読み取った。今後の課題として分類方法の検討、対象とする言葉の増加などが挙げられる。また最終的な目的である文化財防災の社会的着目度の分析を行うには定量的にテキスト分析などの手段を用いて研究を進める必要がある。

(参考文献)

- 1) 田崎篤朗・児島和人：『マスコミュニケーション効果研究の展開』北樹出版、第4章 新効果論(2003.4)
- 2) 柳沢伸司『メディア社会の歩き方』世界思想社、第4章 活字メディア(2004.5)